

4年度 具体的方策

(1) 教師一人ひとりの授業力向上の取組

ア 課題解決型学習の具現化

○問題解決学習の充実

- ・全ての教科・領域等の学習において、授業形態の見直しを図り、児童一人ひとりが、自ら課題を見つけ、しっかり思考し、よりよく解決する授業形態の導入を進める。
- ・自分の思考したことを明確にする指導と、それをもとにした話し合い活動を授業の中に位置づける。

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

- ・学習内容の確認のため、時間内の小テスト、読書指導、音読指導、漢字指導、計算指導等、習得状況の確認を評価する機会を設定し、知識・技能の習得・活用の確かな徹底を図る。

○研究・研修の充実

- ・重点研・年次研等を中心に「研究授業」の実施。授業力向上に結びつけた「自己目標」設定・振り返り。
- ・年次研をはじめとしてキャリアステージに応じた指導力育成に関する研修の推進。

イ 個に応じた指導の充実

○児童理解・学習状況の把握

- ・児童に寄り添い・児童の学習の状況や思いの把握。
- ・市学力・学習状況調査の分析から、個に合った指導を行う。

○個の学習状況に応じての補充・基礎・発展的指導の展開

- ・「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による習熟度別指導の導入。
- ・個の習得の状況に応じた個別指導計画の立案・実践。

○特別支援教育の充実

- ・発達障害のある児童における指導・支援の研修を年2回以上実施。
- ・障害のある児童の家庭への協力要請のもと、アセスメントシート・個別教育計画等の作成と推進を図る。

(2) 学校組織としての取り組み

ア 課題解決型学習の具現化

○学習の基盤となる躰、学習規律の形成

- ・挨拶、返事、学習用具の準備・片付けの徹底。
- ・言語能力（規律ある発言、話を聞く力）の育成と、それを基盤としたコミュニケーション能力の育成。

○学年研の充実

- ・学年研において、授業などを通じた授業力向上のための研究・研修時間の確保。

イ 個に応じた指導の充実

○学習時間内での一人ひとりの理解とみとり

- ・机間指導・個別指導、少人数、TT指導など、個に応じた指導の充実を図り、個の理解度をみとる。

○朝学習の活用

- ・15分間の学習時間を活用し、学習の振り返りなど課題を工夫し、定着を図る。

ウ 研究・研修体制の構築

○研究・研修時間の確保

- ・会議の統合や精査・廃止等の工夫による研究・研修時間を週に2時間以上確保。

○キャリアステージに応じた内容の研修設定及び、各キャリア間の交流

- ・年次研修等メンターチームの構成、研修運営・キャリア間の交流を図る。

エ 学校と家庭・地域の連携

○地域の教育力を活用した多様な授業の提供

- ・地域の特色である農業を生かした体験型学習及び国際交流教室、「昔遊び」「昔語り」の活用。

オ 学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

○学校評価の充実

- ・「授業の評価」「行事の評価」「学校運営全体の評価」等、保護者の意見を積極的に受け入れ、PDCAサイクルを基に学校改善に結びつける。

○横浜市学力・学習状況調査の実施と活用